

第2回文京区アカデミー推進協議会分科会(観光分野) 議事要旨

日 時	平成27年6月29日(月) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンター3階 障害者会館3C会議室
委 員	会 長 野口 洋平 (杏林大学外国部学部英語学科准教授) 委 員 荒木 時雄 (公益財団法人 東京観光財団 常務理事) 委 員 金輪 精梧 (文京区町会連合会副会長) 委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会副会長) 委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会副会長) 委 員 増田 純 (区民公募委員)
欠 席	委 員 白井 圭子 (文京区観光協会 副会長)
事務局	矢島 孝幸 (アカデミー推進部観光・国際担当課長) 熱田 直道 (アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長) 諸 久子(アカデミー推進部アカデミー推進課 観光担当)
資 料	支援事業者 株式会社創建 氏原・山崎 次第 第2回分科会の進め方について(観光) 第1回分科会「議事要旨」

議 事

1. 開 会

2. 議題

(1) 観光体験のふり返り

委員各自が、①資源、②環境、③人材、④情報という4つの観点を意識して自身の観光体験をふり返り、それぞれ発表した。

荒木委員 ハワイ・カウアイ島に観光に行ったとき、日系3世の方にガイドをしてもらったが、島を大切にしていることが伝わってきた。観光客のために苦勞を惜しまないことが大切なのだと感じた。日本では新潟県の妻有トリエンナーレでも、似たようなことを感じた。トリエンナーレがはじまった当初は、地域住民とアーティストに距離を感じたが、次に開催されたときには距離が縮まっていた。地域住民も観光客が来ることを実感したからなのだろう。観光なのか、地域振興なのか、判別がつきにくい部分もあるが、地域をよくしようと思うのは、そこに住む人なのだと思う。

野口会長 観光振興は、効果を実感できないと、住民は前向きになれない。

上田委員 金沢市に観光に行ったとき、武家屋敷の一角に立ち入ることができなかった。京都市ではそのようなことはないだろう。住んでいる人にとって観光客が押し寄せることは大変だとは思いますが、後進的だと感じた。良い面と悪い面があるので、住民をどのように巻き込んでいくかを考えないといけないと思う。

- 春田委員 金沢市には21世紀美術館があるが、あのように新しい価値を見出して、観光資源にしていくことも大切だ。文京区は古いものが多いが、新しくできたものもあると思うので、そのようなものも観光資源として活用していけるとよい。
- 増田委員 観光客を受け入れようという雰囲気には危うさも感じている。観光客にお金を落としてもらえれば受け入れられるというが、まちあるき観光は無料なので、何でも受け入れることがよいかは分からない。生活者への配慮も必要なのではないか。
- 春田委員 マナーの悪さは問題だと思う。
- 増田委員 観光客を排除することがよいとは思わないが。
- 金輪委員 箱根に岡田美術館がある。収蔵品はよいのだが、展示に統一感がない。博物館は系統立った展示が望ましいと思う。
- 熱田委員 観光先では、居酒屋などで地元の人とコミュニケーションをとることもある。よい思い出になるので、そういう場所を見つけられるとよい。逆に、色々な資源があつて良い場所なのに、情報がまとまっていないと観光しにくいと感じる。

(2) 現行計画の施策体系について検討

ワークショップ形式により、現行のアカデミー推進計画の施策体系について検討し、体系ならびに事業の長所と短所について協議した。主な意見は以下のとおりである。

〈観光資源について〉

- 何に価値があるのか、地元の人でも気付かないことがあるので、区外在住者や若者など様々な立場の目線を向けないといけない。
- 住民にとって当たり前のものが魅力的に映るので、住民の「ふつう」を見直すべきだ。
- 産業や坂道など、区内に集積するコンテンツを整理・分析することも必要だ。
- 発掘しすぎず、触れられないもの(アンタッチャブル)も残しておくことで奥深い魅力が出るのではないか。
- 文豪・文人がコンテンツとなっているが、若い人がその作家の作品をどれだけ読んでいるか分からない。
- まちあるきコースづくりの視点について、観光客ごとに楽しみ方が異なる。短時間で楽しむことも考えられるので、必ずしも深さだけが視点ではない。
- 有名な飲食店はあるが、名物はない。一押しコンテンツがない。

〈情報発信について〉

- シティセールスのキャッチフレーズを考えてもよいのではないか。
- どのような組み合わせで周遊しているのかを意識しながら、マップづくりや情報発信をする必要がある。
- 食べ物のマップは評判がいいので、ほかの観光資源をマップにしてもよいのではないか。
- 観光スポットがあつても、どのようにして行けばよいか、その説明が意外にもパンフレットに記載されていない。
- ICTを活用した情報発信を検討したい。

○区内に観光資源は多いが、文京区という名前と結びついてはいえない。

〈環境づくりについて〉

○Bーぐるを観光の足にしてはどうか。

○東京ドームには年間約3500万人が訪れているが、そのまま帰ってしまうので、文京区内へ誘導できないか。

○区民一人ひとりが区のオススを言えるようになり、観光ガイドになれるとよい。

3. 開 会

以上